

宇宙開発戦略本部 宇宙開発戦略専門調査会 第21回会合  
(議事要旨)

1. 日時 平成24年1月13日(金) 16:00-16:52

2. 場所 内閣府本府5階特別会議室

3. 議事概要

(1) 宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制の構築について

山川宇宙開発戦略本部事務局長より、資料1、資料2に基づき報告があり、これを受けて委員による議論が行われた。

[ 議事要旨 ]

事務局から説明された資料1「宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制について」を宇宙開発戦略専門調査会の報告書とすることが了承された。

[ 議事の詳細 ]

主な質疑応答は以下の通り。(○は委員発言、●は事務局発言)

○【葛西座長】 それでは、ただいま説明のあった資料1の専門調査会報告書案について議論をしていきたい。御意見、御質問のある方は挙手をお願いしたい。

○【薬師寺委員】 葛西座長の下で、日本の宇宙政策再生の大きな行政改革がこういう形ででき上がったことは画期的ではないか。様々な議論を頂きながら、細かいところへの反論もあり、そしてこういう形、内閣府で大きな宇宙政策をやるということは非常に重要ではないか。今後、宇宙コミュニティーの話をどう入れるかということであるが、100人ぐらゐのコミュニティーの方を呼んで様々な意見を聴取したということもあった。そういう中で、様々な考え方を整理し、勉強会などもやった。その大部分がこの中に入っている。基本的に日本は、宇宙に関して、ロケットを打ち上げたり、新しい世界に先駆けた先端をやる、自在な能力をまず身につけることが重要で、それから産業化ということは総合科学技術会議の頃からずっと議論してきて、きちんと産業化とこの中でうたわれていると思う。

今後の問題としては、いわゆる宇宙外交の展開。準天頂衛星も数が増えると、赤道直下の様々な国々やアジアの国々、そういう方々にも利用して頂くのが望ましいということで、宇宙外交という考え方を出した。様々な国との関係に関し、外務省が協議すると書いてあるが、日本の国の外交戦略の1つの資源として宇宙というものを捉えるべきではないか。大きく考えると、科学技術外交という枠の中で、宇宙がきちんとした外交資源として使えるという認識が科学技術外交の重要な点。従って、外務省もそういう点をきちんと理解し、

単に交渉だけに外務省が出てくるのではなく、外務省が非常に重要な役割をするということは論をまたない。私は国際政治学者だが、様々な国と、日本の宇宙力を資源として、国の国際政治における立ち位置みたいなものを宇宙でもやる、こういうことがこの中に書かれている。単なる安全保障だけではなく、産業を進展していくことも、日本の外交力を資源として十分使うことではないか。従って、外務省と協議と書いているが、外務省も積極的に宇宙政策を省内に入れ、玄葉大臣が国家戦略大臣の時に準天頂衛星を立ち上げてくれたわけであり、今、外務大臣をやっているが、きちんとそういうことを外務省も理解し、そして積極的に、いずれ所管省になれるような努力をすべき。

○【中須賀委員】 報告書は大変よくまとまっていると感じる。いろいろ議論してきたことが大体入っている。少し確認させて頂きたいが、例えば、宇宙政策委員会等で決定した結果がトップダウン的に様々なところに波及効果を持ち、実施するところがしっかりその通りやっていくことができるような道筋が整備され、かつ、それがスピーディにやれることが非常に大事だと、これまで何回も議論してきた。その中で「2. 内閣府宇宙政策委員会の設置」の（4）の「関係大臣に対して内閣総理大臣を通じて勧告することができる権能を与えるべきである。」で言う勧告というのはどの程度強いものなのか。その意見でそのまま動くような話なのか、あるいはそれを基に更にまた調整するような程度の強さなのか。

●【片瀬審議官】 法制上の立て方によるが、今、想定しているのは、勧告を受けた大臣は、それにどう対応するかをきちんと宇宙政策委員会に報告しなければいけないということまで考えている。その上で、どう対応するかは最終的には内閣総理大臣の下での総合調整になる。

○【中須賀委員】 要は、ここで時間の遅れがあったり、また、調整に非常に手間がかかったりするということがないような仕組みをつくっておく必要がある。それからもう一点、全体の中で、利用のための調整ということはあちこちで書かれているが、実際に具体的に利用の研究を行ったり、あるいは利用を開拓する時に動く人が一体どこにいるのかが少し見えにくい。「3. JAXA のあり方」の中に、利用の研究とか、利用の実用化というのは入っていないが、JAXA にそういう方向も含めて動いて頂くような道はないのか。

●【片瀬審議官】 JAXA の今の業務として、成果の普及、あるいは利用の促進というものがあるので、JAXA が開発した技術については JAXA で是非どんどん進めて頂く、そういう観点から内閣総理大臣が主務大臣になっているということである。それ以外の技術も含めた全体の利用の促進については、最終的には各省庁、あるいは各主体がしっかりやって頂くことが基本ではないかと思うが、5頁目の（2）にあるように、全体を後押しをする事務を内閣総理大臣が所掌事務として持つことで、例えば、実用化は各省であるが、そのためのアプリケーションを開拓するような後押しの政策を講ずる、あるいは、リモートセンシングなどで各省のベストプラクティスを持ち寄り、他の役所でうまくいっているものは真似するというような形での経験・情報の共有、更にはデータの標準化等統合的な提

供、即ち横割り横断的にやることが効果的な事務は一元的に内閣府が自分の事務としてできるようにすることにより、各省の取組みを促していくことを考えている。

○【中須賀委員】 例えば、リモセンにおいては、利用の研究を相当やり、その結果が衛星のスペックなりに反映していくような道筋を作っていかなければいけないと思うが、その道筋をつくるための仕組みは、ここに書かれていることをベースに進めていけると考えてよいか。

●【片瀬審議官】 利用の推進の一貫として、ユーザーのニーズを総合的にとりまとめるということがはっきり書いてあるが、これはかねて御議論頂いたような、例えば、利用者の協議会とか、そういうメカニズムも活用する。その上で、各省庁の技術開発に反映させるところまでやるということで、特に JAXA については、そういう観点から主務大臣になっている。

○【中須賀委員】 「3. JAXA のあり方」の中の「(4) 我が国宇宙開発利用を技術で支える中核的な」というところで、「各省のニーズ及び考え方を内閣府が政府の宇宙開発利用全体を進める立場から集約し、」とあり、ニーズが各省から出てきているようにここには書いてあるが、例えば、民間から出るようなニーズ、海外との連携の中で出てくるようなニーズは、すべて「各省のニーズ」の中に含まれていると考えてよいか。

●【片瀬審議官】 ここは、むしろ関係省庁間の緊密な連携を確保することを書かせて頂いている。先ほど御説明した5頁の(2)の「我が国全体のユーザーのニーズ」は、御指摘のとおり、産業界、学会、一般国民も含めたものとして考えている。

○【中須賀委員】 (2)のユーザーのニーズと、先ほどの JAXA の中に書かれた各省のニーズというのは少し意味が違うということか。

●【片瀬審議官】 はい。

○【上杉委員】 昨年12月22日の時点では出てきた原案から、今回まで何度か見させて頂いたが、12月22日の段階では未だ色々意見があった。しかし、今回、こうしてまとめられた結果を拝見すると、特に大きな違和感もなく、よくまとまったものだと感じている。但し、1点だけ、少し細かい質問になるが、8頁の「3. JAXA のあり方」の(3)の後ろにある「内閣総理大臣が主務大臣とならない基盤的研究や人材の育成に関する業務については、」というところが少しわかりにくい。内閣総務大臣が主務大臣になる基盤的研究や人材育成と、ならないものがあるのか、そもそも基盤的研究や人材育成に関する業務が具体的に何を指しているのか、少しわかりにくいので伺いたい。

●【片瀬審議官】 まず、基盤的研究や人材の育成というのは、現在の JAXA 法の業務を想定して書いており、具体的には、昔の NAL、航空宇宙技研の事務の宇宙関係部分を想定して書いてある。内閣総理大臣が主務大臣となるのは、旧宇宙開発事業団の業務であり、NAL の業務については主務大臣にならない。但し、それについては、中期目標の協議を受ける大臣になるという整理である。従って、主務大臣とならない基盤的研究や人材の育成

については、法律上の整理という意味では主務大臣にはならない。これは主務大臣にならないということを、わかりやすく書かせて頂いたということである。

○【中須賀委員】 今と同じ（3）の頁の切れ目のところで、内閣総理大臣が我が国のユーザーのニーズを集約し、人工衛星、ロケット、射場等の関連施設の開発段階においてスペックや性能を設定するということは書いてあるが、ミッションを選択するということが入っていない。逆に言えば、ミッションは別のところで選ばれるのか、この辺の流れはどうなのか。

●【片瀬審議官】 これはいわゆる衛星、ロケット等の開発の上流部分ということであり、当然ミッションも入っている。

○【松井座長代理】 私も、もう2年ほど宇宙政策の議論に関わってきて、その間に出た議論を現状の中で実施可能なようにまとめるところなのかという意味では、非常によくまとまっている。理想を言えば幾つか問題があるが、現状というものがあり、その現状を変えて一歩進めるという意味では、非常に高く評価できるのではないかと。内容を見ると、例を挙げたりして、ストレートに書きにくそうな部分があるわけだが、想像するに、JAXAの現状を将来変えていく時に、すぐには変えられない部分を、様々な抵抗の中でまとめるところなのかと。本来は、主務省として内閣府がJAXAの中に入っても不思議はないと思うが、そうならない文面になっているところを見ると様々な経緯があったのではないかと。そういう中で、実質的に今までの議論を進めるという意味で、回りくどい文言になったのではないかと理解している。近い将来、もう少しすっきりした形になることを希望するが、現状ではこんなところかなという印象である。

○【佃座長代理】 私は、昨年末、経団連及び航空宇宙工業会からの提言、組織の機能、ミッションが変われば体制もこのように変わるべきという提言を御紹介したが、それが非常にうまく最終案の中に盛り込まれていて、皆さんが今まで評価されたと同様に、私も大変よくできていると評価したい。

○【松本委員】 全体の印象を申し上げますと、非常によくまとめられているというか、事務局を中心とする方々、関係府省の様々な関係者が努力された結晶だろうと拝見した。宇宙分野というのは、歴史的には宇宙科学の分野から先鞭をつけ、宇宙産業に至るまで随分発展してきた。各方面にかなり広がった。従って、国全体の中で、内閣府に司令塔を置くというのは1つの流れであろうと申し上げてきた。それをうまく文章に表して頂いた。産業についても、いずれ宇宙産業が国の大きな部分になっていくということは再三再四申し上げてきたが、そうしたことを目指す布石にもなっており、大体これで結構である。JAXAの中の宇宙科学研究所については特出しをして書いて頂いており、私は研究者コミュニティの代表というわけではないが、関係する人間としては、適切な表現になっていると思う。但し、ISASの中にも、様々な意見の方々がいるので、非常に幅広く学術コミュニティの意見を取り上げてという言葉を入れて頂いており、これは非常に公正な書き方をして頂いたと感じている。

○【川本委員】 長きにわたって議論してきたわけだが、このたび内閣府に宇宙政策の司令塔を置き産業化を進め、積極的な宇宙利用を進めていくことが明記され、非常によかった。この間の葛西座長の御指導と、事務局、関係者の御努力に賛意を表したい。これが報告書になり、今後どういう形で展開していくのか、時間軸をもって教えて頂きたい。

●【片瀬審議官】 報告書の御提言を頂いた後、これを踏まえて法案策定の準備作業を進めたい。今の目標としては、予算関連法案として、次期通常国会に提出する。目標としては、4月の頭に新組織の発足を目指したい。今、内部で調整している。

○【渡辺委員】 皆さんの意見と大きく変わらないが、これからの産業として宇宙産業は非常に注目されており、日本がやらなければいけない大変大きなテーマである。そういう意味で、一元化して内閣府が組織的にうまく回していくことがはっきりしたのは、大変よいことだ。形はできたが、魂をどう入れるかが今後の最大のポイント。人の配置の問題あるいは権限や遂行能力の問題を更に検討し、具体的にうまく回るような仕掛け、仕組みを是非考えていかなければいけない。もう一点、内閣府宇宙政策委員会の設置とその在り方について申し上げたい。これはいわば諮問機関とかスタッフ部門になるわけであり、企業の組織でもそうだが、ラインとスタッフの在り方は大変難しいところがある。この政策委員会の在り方をここに書いてあるとおりにするために、具体的にどううまく進めていくかが今後の検討の大きな課題である。人選も含めて大変難しいが、慎重にしっかりと機能するような組織にして頂きたい。

○【薬師寺委員】 ISASは、松本先生が指摘した9頁のことだが、これだけ書かせて頂いているわけであるから人材について責任を持ってほしい。ISASが学術コミュニティーだけの意見をやるのではなくて、優秀な人間を様々な大学で、宇宙だけではなくて、素材とか機械とか、そういう人間を宇宙の中に引っ張り込むようなことはISASの責任ですと、それくらいのつもりでちゃんと記録にとどめたい。

○【松本委員】 私が薬師寺委員の前に手を挙げたのは違うポイントである。折角名前を言及されたので申し上げますと、ISASの歴史は、多くの方が御存じのとおり、大学共同利用機関としてである。最初は、東京大学の研究機関としてスタートし、多くの大学の宇宙に関係する、科学と打上げロケット関係、人工衛星技術関係者が集まってスタートした。今では、いろんな形の委員会が整備され、大学を代表するような、あるいは研究者を代表するような人が、その重要委員会に入る仕組みになっている。1点、私が気にするのは、学問は、次々と発展していくし、技術もかなり大幅に方向が変わっていく。そういう時に、既存のグループの委員会メンバーだけで物事が決まらないように、常に宇宙科学全体あるいは技術全体を見渡すような人選をし、人を育ててほしい。その気持ちは大学側としても変わらない。そう期待したい。もう一点、最初に言いたかったことは、この調査会の受け皿となる宇宙政策委員会あるいは内閣府の新組織について、渡辺委員からコメントがあったが、私も全く同感で、そこに魂が入らなければ、恐らく、我々のこの調査会の長きにわたる議論はほとんど意味がなくなる。従って、人選も勿論そうだが、内閣担当の大臣が、

今までかなり数多く変わった印象を持っている。ここは宇宙戦略を議論する場であり、長期的なビジョンに立ってやるべきということは、ここで再三再四議論されたので、長期的なビジョンに立って、その時々を担当大臣あるいは政府が、余り大きく左右されずに、大きなしっかりとした大戦略を立ててほしいと願う。

○【松井座長代理】 今、皆様から御意見が出た宇宙政策委員会というのが、これからの宇宙政策を進める上で一番重要なポイントで、それは多分、これをまとめた方々も同じ意見だと思う。私は、様々なところに関わってきて、国のこの種の委員会が機能しなかったということは、いろいろな理由があると思っており、この宇宙政策委員会は、今までと同じようにやるのではなく、少し先取りするような形で改革を行うような体制を是非作って頂きたい。具体的には、委員が、単に各省庁から来ている人の情報だけ聞いて判断するということは、今の時代なかなかできないわけで、やはり自前である程度データを収集するスタッフのようなものを持つ体制で、かなり深い情報を自ら取得できるような形でないと、現実的にはこれまでと余り変わらないだろう。前にも申し上げたが、そういうことは、とてもこういう文面には入らないと思うが、これが発足する段階では、これまでの政府のこの種の委員会には無かったような新しい試みを、是非、この宇宙政策委員会では採用して頂きたい。

○【葛西座長】 大体皆さんから一通り御意見を伺った。安西委員、何か御意見は。

○【安西委員】 ありません。

○【葛西座長】 いろいろ御意見を頂いた。この報告書案は、先生方の議論と事務局の御努力でとにかく大方よくまとまっているという御意見をいただいた。したがって、これを専門調査会の報告書ということにさせて頂いてよろしいか。

(「異議なし」と声あり)

○【葛西座長】 ありがとうございます。宇宙の分野には門外漢の座長であり余りお役に立たなかったが、まとまって本当によかったと思う。事務局の御努力に感謝したい。それでは、本報告書(案)をもって、専門調査会の報告書として宇宙開発戦略本部に提言したい。

## (2) その他

○【葛西座長】 その他、何かあれば。

○【松井座長代理】 宇宙政策委員会のようなものを、今度の通常国会で法律で出すとして、いつ頃から発足できるのか。宇宙専門調査会は、今回、これで終わりだろうと思うが、次のものができるまでの空白期間はどの位あるのか。

●【片瀬審議官】 法案審議が順調に進んで成立した場合、4月から法律上の基盤ができるので、あとは人選も含め、どう迅速に作れるかということ。

○【松井座長代理】 余り空白期間が長引くことはないということか。

●【片瀬審議官】 そこは、迅速に対応したい。

(古川宇宙開発担当大臣、入室)

ここで、古川宇宙開発担当大臣より次のとおり御挨拶があった。

- ・引き続き、宇宙戦略担当大臣を拝命いたしました古川です。
- ・葛西座長を始め、この専門調査会委員の皆様方におかれましては、皆様、本当に御多忙な方ばかりでいらっしゃるにもかかわらず、1年以上にわたりまして御審議を頂き、今日、この宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制についての報告書を取りまとめたこと、心から厚く御礼を申し上げます。
- ・今日まとめて頂きました報告書を踏まえ、政府としては、実効的な宇宙開発・利用体制を構築するための法案を、今度始まります通常国会に提出する予定です。
- ・また、昨年8月にとりまとめられました宇宙開発利用の戦略的推進のための施策の重点化及び効率化の方針についての報告書において、最重要課題とされました準天頂衛星システムについては、皆様御存じのとおり、平成24年度予算政府原案において106億円を計上し、来年度から実用準天頂衛星システムの開発整備に着手する運びとなったことを、この場で改めて御報告をさせて頂きたい。
- ・皆様方には、本当にこれまで大変御熱心に御議論頂きましたことを、改めて御礼を申し上げ、また、今回こういう形で報告書を出して頂いたということで、この専門調査会は一度これで幕を閉じることになるが、今後とも様々な形で、我が国の宇宙政策の推進に御指導、御支援を賜ればと思う。よろしくお願い申し上げます。

○【葛西座長】 ありがとうございます。12回、一昨年の12月から12回という会議であったが、大変御熱心な議論を頂き、事務局の努力もあり、何とかまとめることができました。これで、本日の会議を終了させて頂きたい。

(了)